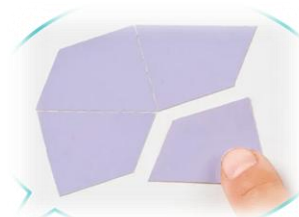


マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年9月3日(木) No.22
文責：情野 夏美

亀岡小学校 校内授業研究会に参加してきました！

昨日、高畠町立亀岡小学校の授業研究会に参加してきました。5年算数「図形の角」の5時間目「四角形が敷き詰められる理由を考え、内角の和を基にして説明する。」授業を参観しました。下記に参観した感想を記載しましたので、ご覧ください。指導案も回覧します。



- 私も、実際に授業を行いました。四角形を敷き詰める中で、児童に内角の和を基に考えさせるのは難しいと感じていました。そこにチャレンジされるのは、素晴らしいなと思いました。子どもたちから、既習事項や答えをどんどん導き出されていて、子どもの声が入った授業展開でした。また、指導案にも驚きました。様々な研修会に参加させていただいている中で、単元構想を下から上へ持っていく書き方をよく目にしていました。最終目標が単元の最終回であるから上へ持っていく書き方は画期的でした。
- 四角形を敷き詰める際に、同じ長さの辺を合わせるだけでなく、合わさる角の関係性にも注目することが大事になってくるなと感じました。4つの四角形、4つの角がぴったり合わさる＝四角形の内角の和が 360° であることをしっかりと前時までに抑える必要性を感じました。本時だけで考えず、単元を貫いた教材研究、発問、教材の工夫、授業展開が重要になってくることを改めて感じました。
- 最初に扱った四角形で、4つの角が1点に集まるようにしきつめることを確認することで、「だったら違う形の四角形はどうなんだろうか？」という子どもの新たな問いが自然と生まれてくるのではないかと感じました。ICTでしきつめを行うことで、「こんな四角形も4つの角を1点に集めるとしきつめられたよ。」と共有できると感じました。
- 操作させる際、ICTか紙かを選ばせるのも委ねるの一つかなと思いました。先生の指示で、みんな紙で行っていましたが、子どもの中には手先が器用ではない子もいると思うので、ここでICTが使える！と思いました。
- 別の形の四角形を敷き詰める際に、「最初の四角形との共通点を見つけよう。」と視点を与えられているのはいいなと思いました。ただ、本時の学習内容・評価内容が「説明する」なので、もっと友達と共通点について交流させて、自分の考えをアウトプットし、友達の考えの相違に気づいたり、考えを改めたりするきっかけにできればと思いました。

※急いで撮らせていただいたので、ぼやけた板書の写真になってしまいました・・・。

